



令和8年(2026) 2月14日

65

ズーラシアンプラス & 弦うさぎ

大人も楽しめるコンサート

動物の着ぐるみを着て演奏するズーラシアンプラス & 弦うさぎのコンサートを楽しみました。東京に住む妹の家族が大のファンで何度もコンサートを観ておますが、先日私の住む伊勢崎市にもやってきましたので、妹家族と母と私で観に行きました。

着ぐるみを着ての演奏ですがものすごい演奏技術で感動しました。今回はバレンタインデーが近いという事で「愛」をテーマに、弦楽アンサンブル(弦うさぎ)で、演目は、リスト作曲「愛の夢」、エルガー作曲「愛の挨拶」、ジャズスタンダードの「二人でお茶を」やオリジナル曲を、そして、金管アンサンブル(ズーラシアンプラス)は、グリンカ作曲「ルスランとリュドミラ」序曲、童謡「アイアイ」、プッチーニ作曲「誰も寝てはならぬ」、ポーランド民謡「踊ろう楽しいポーレチケ」、ナット・キング・コールの歌で知られている「L-O-V-E」などが演奏されました。

弦楽・金管合同でルイ・アームストロングの「この素晴らしい世界」とアンコール曲「君の瞳に恋してる」を演奏、それぞれの曲で動きやコントがあり、例えば「誰も寝てはならぬ」では眠る演奏者に対し客席の子供達が「起きろ」と叫ぶなど、ホール内が一体になるような演出で子供も大人も楽しみました。



それにしても素晴らしい演奏技術です。各曲で感動の世界に導いてくれたことで私もこの「ズーラ
シアンプラス & 弦うさぎ」のファンになりました。

ズーラシアンプラス

素晴らしい文学作品を読んで聞かせても、小さな子どもがその世界に入り込んでいくことはすぐにはできません。そのために 文学の世界には『絵本』と言う素晴らしい芸術の入り口が用意されています。音楽の世界にも童謡という子ども達への贈り物がありますが、歌詞に頼らないクラシックの世界では絵本のような分かりやすい入り口がなかなかありませんでした。ズーラシアンプラスはクラシック音楽における絵本の役割ができれば…と考えられ、そして誕生しました。

指揮者のオカピをはじめ全て希少動物という金管五重奏ズーラシアンプラス。2000年に誕生しました。さらに「弦うさぎ」「サキソフォックス」といった動物の仲間たちも加わり、コンサート『音楽の絵本』を行ない、子どもたちのクラシック音楽への興味を一層高めています。ズーラシアンプラスは、これからも音楽の素晴らしさを知る糸口を提供していきたいと思っています。

弦うさぎ

弦うさぎは、うさぎの四姉妹の弦楽四重奏団。上から、メグ、ジョー、ベス、エイミーの四姉妹です。作曲家の父とバイオリニストをめざしていた母。その影響で小さい頃からクラシック音楽を聴いて育った四姉妹でしたが、父親が作曲の旅に出てしまい、母と一緒に世界各国をまわっているため、一年のほとんどは姉妹のみで生活しています。寂しさを紛らわそうと姉妹で始めた演奏会が街中で大評判。その息のあった演奏と幻想的な世界を紡ぎ出す音楽性に惹かれ、遠方から聴きに来る人々も絶えなくなったとか。かくして弦うさぎ弦楽四重奏団が生まれたのでした。

<https://www.superkids.co.jp/z-brass/>

変わり種バレンタインチョコ

バレンタインデー限定で面白いチョコレートが売られる事を知り、毎年変わり種のチョコレートを見つけることが楽しみになりました。今年見つけたのは100円ショップで見つけた工具の形のチョコレートとスプーンの形のチョコレートです。まずは家族・親族・職場の方々に楽しんでもらいました。今年は費用があまりかからなくて助かりました。味もおいしかったです。



[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る